

「僕の弟への願い」

犬山市立南部中学校 一年

吉田 蓮

僕には、小学四年生の弟がいます。弟は二才くらいの頃から、とても痛癢かんしゃくが強く両親は育てにくかったそうです。

「発達障害」弟についた診断名です。

弟と毎日暮らしていて、感じたことや困ったことを記したいと思います。

弟は発達障害といっても見ためで分かるような障害でないため、自分勝手だとか変わった人だなとしか思われていないのが現実です。家や出かけた先でも少し気になったことがあったりすると、大きな声で反応したり思ったことをすぐに口に出してしまふので、兄としてこの先、社会に出たときに大丈夫か心配することもあります。

でも裏を返せば、人の前で臆することなく自分の意見が言えることは、とても素晴らしいことだと思います。僕は弟とは違い人の前で話すことが苦手で、学校でも手を挙げたり人の意見につけ足すことが苦手です。弟にどうやったらそんなに堂々と人前で話せるか聞いてみると、すぐにこう答えてくれました。「そんなの簡単やん、相手にどう思われたって気にしなければ、思ったことが言えるしスッキリするよ。兄ちゃんウケ狙いすぎー」弟からのまさかの返事に僕は何も言い返せなかった……。弟は考えて無いようでした。確かに考えた考えが頭の中にあるんだ、中学生の僕よりも色々考えて生きているんだなど、初めて思う出来事でした。

弟は、頑固な性格で何ごとも最後までやりとおす人です。弟は、絵や工作が好きで、入賞するほどの腕前です。昔から絵を描くのが大好きで時間があれば絵を描いていました。好きな物は、細部までこだわったり夢中になれるのがすごく羨ましいです。

人には、個性がありそれぞれのよさがあると、僕は思います。弟のように絵が上手だったり僕は運動が好きだったり色々な人がこの世の中にはいて、社会はまわっていると思います。障害があるなし関係無く、平等に助け合いながら、互いを尊重して生きていけば、もっと優しい地球になっていくと思います。

最後に弟に一言。

『困ったことがあったら僕に言ってね、これからも仲良くしような。』